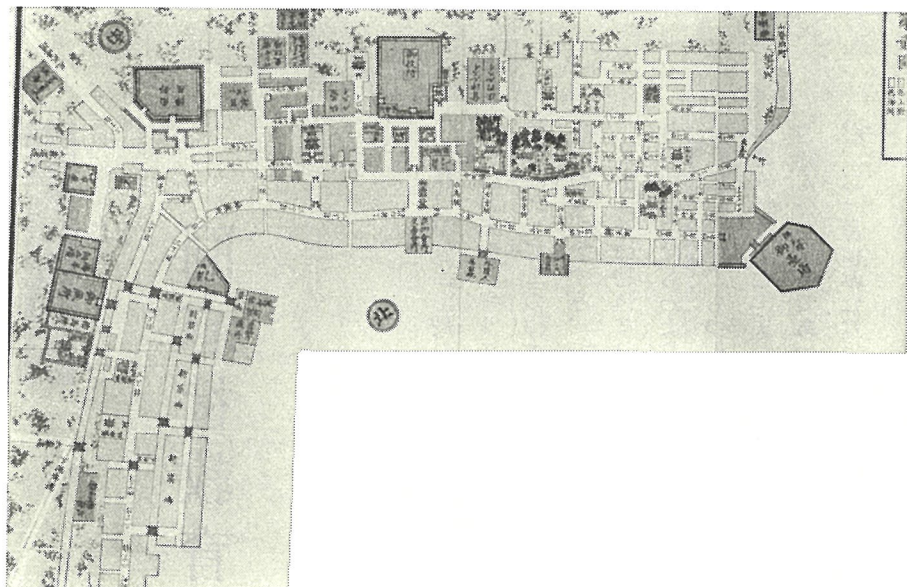


一日千秋の思ひをなし居り候裏も、本年を関東に送るに至りしは、実に胸算外にして、残念遺憾とする所は、一は政界の波瀾動揺定まらず、上下共に大不出来と云はざるべからず。一はそのために大学の事業も已に端緒を開らきかゝりて開けず、一はかねて予期せし通り、此の冬の休暇には小生も一と先づ帰宅致し、貴君方と充分御交はり申し、将来の爲めに種々相計り申さんと楽しみ居りしに、これも意の如くならず、心は日夜相国寺門前（同志社所在）に飛ぶも、身は病魔の一囚人となり、東京にすら止まる事叶はず、大学募集の端緒の相開け候迄では関東に止どまり、持久の策を立て、稍々氣候の温和なる此の大磯の浜辺に蟄居し、他日の雄飛を計る小生の心情は如何なるものぞ、貴君御洞察あれかし。已に御承知もこれ有り候通り、小生には去月廿五日上州に参り募集の策をなし候に、諸事以外に相運び、ここかしこよりも集会を設け、小生を招き呉れ候に、廿八日（十一月）より俄かに病にかゝり、本月十三日迄も少しの進歩も見えず、寒気は益々募り来り、奈帝（ナポレオン）モスコにて全敗したるが如く、空しく帰京致し候。然し又々再挙の企てなきにあらず。来春再遊を約し帰り来り申候。



万安元年函館地図（本文59頁参照）